

平成30年度 第3回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 平成30年7月17日(火) 14:00～16:00
- 2 開催場所 小平市中央公民館 会議室
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 12名
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、
分館担当係長 7名
- 4 傍聴者 なし
- 5 配布資料 (1) 平成30年度 小平市公民館定期講座実施状況表・・・資料1
(2) 平成30年度 小平市公民館まつり開催報告・・・資料2
(3) 平成30年度 東京都公民館連絡協議会 職員部会 報告・・・資料3
(4) 平成30年度 東京都公民館連絡協議会 委員部会 報告・・・資料4
(5) 小平市公民館の事業に関するアンケート調査報告書・・・資料5
(6) 中央公民館等の更新及び小川駅西口再開発事業の公共床等
取得について・・・資料6
(7) 平成30年度 第2回小平市公民館運営審議会 会議要録・・・資料7
- 6 次第 (1) 館長報告
(2) 平成30年度 小平市公民館定期講座実施状況について
(3) 平成30年度 公民館まつり等について
(4) 平成30年度 東京都公民館連絡協議会について
(5) 平成30年度 公民館運営審議会自主研修会について
(6) その他

会議の概要

1 館長報告

(1) 6月市議会定例会における一般質問について

・「フレイル予防へ誤嚥防止の取り組みで健幸都市を目指そう」(虻川 浩議員)
公民館講座の誤嚥防止に関する企画の具体化について

(答弁) 公民館講座の誤嚥防止に関する企画の具体化についてですが、本年度は、呼吸

法や発声トレーニング、滑舌トレーニングなど、声を出しのどを鍛えることで体の内面から健康維持、増進につなげる講座を実施します。

今後も介護予防や健康づくりに関する講座を企画する際には、市民が参画する公民館事業企画委員会の委員である、地域包括支援センターの職員などのご意見やご提案も聞きながら、進めていく。

- (2) 中央公民館等の更新及び小川駅西口再開発事業の公共床等取得について（情報提供）
資料6について説明した。意見交換会についてのチラシは6月の自主研修会で配布済み

2 平成30年度小平市公民館定期講座実施状況について

（質疑応答）

- 委員 既に修了している講座がある。修了したらどのような評価をするのか。例えば中央公民館の乳幼児コンサートはどうか。
- 事務局 気軽に親子で参加できるミニコンサートとして実施した。定員を超える参加があり、効果を果せたのではないかと。
- 委員 同じく中央公民館の「景観から知る小平」とはどのような講座か。
- 事務局 わがまちの魅力を歩きながら再発見し、小平に愛着を持ってもらうことを目的とした講座である。
- 委員 一覧表の見方について、複数回実施している講座の定員、応募、受講については延べ人数か、実際に参加した方の人数か。
- 事務局 例えば「こだいらの「畑」を訪ねてみよう！」は、当初15組30人を募集したが、応募が多かったので、講師と調整し20組42人が参加した。延べ人数ではなく、実際に参加した人数である。
「明治維新と小平」は、多くの応募があったことから、講師と調整し応募者全て54人を受講決定としたが、実際に参加した人数は50人である。
- 館長 「明治維新と小平」は、当初グループワークを取り入れながらの講座を想定しており、募集人数を20人とした。想定以上の応募者があり、講師と調整し、座学を中心としながら、意見交換できるような形式に変更して実施した。

委員 たくさんの応募があり、それに対して受講人数を増やしたことは成果を感じる。一方、当初の学習企画の意図と違う中身になったことについて、そもそも企画に問題があったのか、実際の講座形式が変わってしまったことで、当初の目的を達成したのかどうか、成果を踏まえ、どちらが良いとは言えないが、検討の余地があるのではないかと思った。

館長 目的が変わったわけではなく、講座形式の変更である。「明治維新と小平」は、グループディスカッション中心の講座でなくでも、当初の目的は果たせると考え、変更したものである。

委員 ホームページについて、申込みの終わっているものが掲載されている。修了したのも載っているとまだ募集していると勘違いされるので、対応してほしい。

館長 7月1日付けでホームページがリニューアルされたので、申し込み終了や満員御礼と表記するか、または掲載をしないなど見直ししていく。

会長 「明治維新と小平」の受講者の年齢層はどうか。

事務局 シニア層が多い状況である。

3 公民館まつり開催報告について

事務局より、資料2について説明した。

(質疑応答)

委員 花小金井南公民館の音楽会は、最後に子どもたちに楽器を触らせていただけて、とても盛り上がった。上宿公民館まつりと第五中学校の運動会が重なっていた。運動会などの行事は避けるようにしているのか。

館長 学校の年間行事予定は2~3月頃に示され、それに合わせて、日程調整している。しかし、公民館まつりの日程は、1年前には、公民館利用者懇談会等と調整しながら決定しているため、避けられない。公民館まつり以外の行事は、できるだけ学校の行事と重ならないようにしている。

委員 花小金井南公民館のまつりのチラシについて、裏面をコンサートにしており、見やす

くて良かった。作品展示もいろいろ出ている良かった。公民館利用者は、シニア世代と乳幼児とその親が多いことが分かっている。公民館の存在を知ってもらうという意味で、津田公民館で実施される小学生向けの学習支援だけではなく、中学・高校生向けの学習支援室があったらいいのではないかと感じた。

委員 武蔵野美術大学の近くに住んでいるが、最近、戸建住宅が近所に多く建っている。転入者を新たに呼び込むために公民館まつりを活用できないかと思っている。ウェルカムメッセージの様な。

会長 チラシやポスターは、早くから、近隣の自治会や学校に配布している。新しい住民には、公民館に足を運んでもらうためにもっと工夫ができないかというご意見だと思う。

委員 上宿公民館のまつりは、利用者懇談会に入っていないと参加できない。他館には、実行委員会形式で実施している館もあり、公民館まつりは別枠でできないか。

会長 鈴木公民館と花小金井南公民館は実行委員会形式で、学習の成果を発表する場所であるとともに地域の方と一体となって実施している。新しいサークルが利用者懇談会にスムーズに入っていけるようになると良いと思う。

委員 新しい人が気軽に参加できる地域が良い地域だと思う。公民館まつりに参加し難い状況があるのであれば、見直した方がいい。

館長 若い世代が入ってきやすいように敷居を低くすることで、地域の発展や活性化につながると思うので、しっかりと現状を受け止めて、各館にこのようなご意見があったことを投げ掛けて、見直ししていけるように努めていく。

なお、上水南公民館は今年度から実行委員会形式で公民館まつりを実施する。

4. 東京都公民館連絡協議会について

事務局より資料3、委員より資料4について説明した。

(質疑応答)

委員 東京都公民館研究大会は2月3日で決定か。

事務局 決定となっている。

5. 公民館運営審議会自主研修会について

事務局より説明した。

- 会 長 各館に事業企画委員会が設置され、地域づくりの拠点としての役割を担うべく、新たな利用者が増えているという効果を実感している。乳幼児からシニア層まで、多様な住民が関わる異世代交流などの事業が企画されている。小平市公民館の事業に関するアンケートの報告書によると、公民館に期待することの3割が「仲間との出会い・仲間づくり」、約2割が「講座内容の充実」、「地域コミュニティづくりの支援」とある。昨年の東京都公民館研究大会の第3課題別集会の「魅力ある講座を考える」が良いテーマだと考えており、10月の研修会のテーマとして取り上げられたら良いと思っている。参加対象として、公民館運営審議会委員と事業企画委員会、九館会、利用者に呼びかけたい。
- 委 員 公民館の抱えている問題は、間口が広い。現状を把握する上で、公民館運営審議会委員は各分館を回り、分館長と意見交換をしてほしい。事業企画委員会のスケジュールが決まっているので、ぜひ、そちらにも参加してほしい。市民が主役になって活躍しているので、事業企画委員会の様子も見てほしい。地域の課題を全て公民館で解決できるわけではない。人気取りの講座ではなく、魅力ある講座が求められている。公民館はカルチャーセンターではない。これが重要である。
- 委 員 前期の公民館運営審議会の提言の中にある「次期公民館運営審議会で新たに検討を要する課題」として挙げられた検討事項の中から何点かを検証していくのはどうか。前回からの引き継ぎ事項だと思う。
- 委 員 まちづくりにはどのような取り組みが求められているのか。きっかけづくり、働きかけ、事例紹介などを学びたい。
- 委 員 さまざまな魅力ある事例を学ぶことは必要だと思う。公民館利用者を増やすため、人を呼び込む講座は必要である。仕掛け作りなどの事例を学びたい。
- 委 員 カルチャーセンターと公民館の講座は違う。これからの高齢者は、仕事を辞めてから平均10万時間、学校を出てから仕事を辞めるまでも10万時間と同じである。公民館の講座は、趣味ではなく、生涯学習の場である。貴重な「公民館」という資産を活用していければ良いと思っている。気付きを市民に提供するための研修会にしたい。
- 委 員 カルチャーセンターの講座の方が、参加しやすい。

- 会長 個人の教養を高めるだけではなく、地域の発展のための講座が公民館で実施されるべき講座だと思う。
- 委員 前期の公民館運営審議会の提言が具体的にどう変わったか、実績を検討する必要がある。花小金井北公民館の事業企画委員会では、防災をテーマに検討している。ただ、どこの館でも考えられる防災ではなく、花小金井周辺の防災について、企画してほしい。最近、男の料理が流行っているが、健康に気を使った料理を扱ってほしい。日常生活に関連した料理メニュー方がいいのではないかと。
- 委員 地域づくりが、我々のミッションではないかと思っている。コミュニティの定義を聞きたい。
- 委員 公民館を知ってもらうためにも、人を呼び込む講座も大事。講座名やキャッチコピーをうまく作っていくことも必要である。
- 委員 公民館の役割として、学びの場、仲間との出会い、コミュニティづくりに期待している。現状の公民館利用者は、シニア世代と子育て世代が多い。コミュニケーションを図ることが長生きの秘訣。学びに足を踏み込みやすいような魅力を引き出す。
- 委員 研修会のテーマについて整理すると、まず最初に「魅力ある講座」とはどういう講座かということから、カルチャーセンターとまちづくりにつながる講座では、量と質の問題があると思う。公共施設だから多くの人に来てもらいたいが、しかし、人集めだけで良ければカルチャーセンターと同じではないかとのジレンマがある。仕掛けや仕組みを考えるうえで、参加しやすさということと、地域づくりやまちづくりにつながる循環型ということとの両立は難しい課題だと思った。
- 2つ目は、「魅力ある講座」ということで関連しているが、カルチャーセンターの魅力ある講座という切り口と、地域づくりやまちづくりを目指す公民館の講座という切り口は、「地域にとって魅力のあるテーマ」という意味においては、重なっている部分が大いにあると思う。
- 3つ目は、事業企画委員会が設置されたことは、小平市にとって大きな変化で、事業企画委員会と向き合い、各館の現状や取組状況を聞きながら検討し、学び合う研修方法もあると思う。
- 4つ目は前期の提言の検証と新たな課題の設定。公民館活動がどこまでできていて、これからどこに力を入れていくべきかということについて検証し合うことが必要であると思った。

5つ目は、今回の小平市公民館の事業に関するアンケート結果は、ニーズを知るとい
うより、回答者が利用者層を反映しているため実態を知る調査だと思った。

生き方が違っていくことを考えると、さまざまな世代の人にとってどういうふうに公
民館が役割を果たしていけばいいのか学んでいく。

研修の方法については、講演型も良いが、実際の事例を聞き合うことや一緒に考える
ディスカッション形式も良いかもしれない。

館 長 公民館が目指している地域のコミュニティづくりに、公民館がどう関わっていくのか。
どういう役割がプラスになっていくのか、市民と一緒に考えていきたい。
また、事業企画委員会は、講座の企画を検討する場であって、公民館運営審議会では、
さらに大きな視点で、ご意見をいただきたい。

会 長 8月の自主研修会でこの続きを実施したい。

6. その他

事務局より資料5について説明した。

次回は、9月18日（火）午後2時～中央公民館会議室にて開催する。